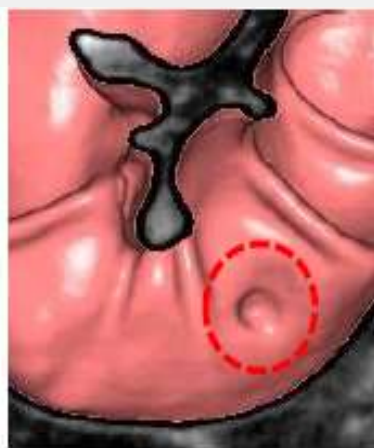


大腸3D-CTカメラにつきて

X線CTを使って大腸を調べる新しい検査です。CT撮影で得られたデータから大腸の3D画像を作成し、ポリープや腫瘍などを見つけます。

従来より行われている内視鏡検査は、スコープ挿入時の痛み等、体に少なからず負担のある検査ですが、大腸CT検査は、大腸を炭酸ガスで膨らませCT撮影を行うため、検査中、お腹の張り感や軽度の痛みが出現する場合がありますが、体への負担は軽度です。また、腹部全体の撮影を行っているため、肝臓、腎臓など腹部全体の臓器の検査も併せて行うことができます。

検査は鉛筆ほどの太さのチューブを肛門から10cm挿入し、大腸を拡張させるための炭酸ガスを注入します。検査時間は20分程度です。



ポリープ 3D-CT画像



3D-CT画像



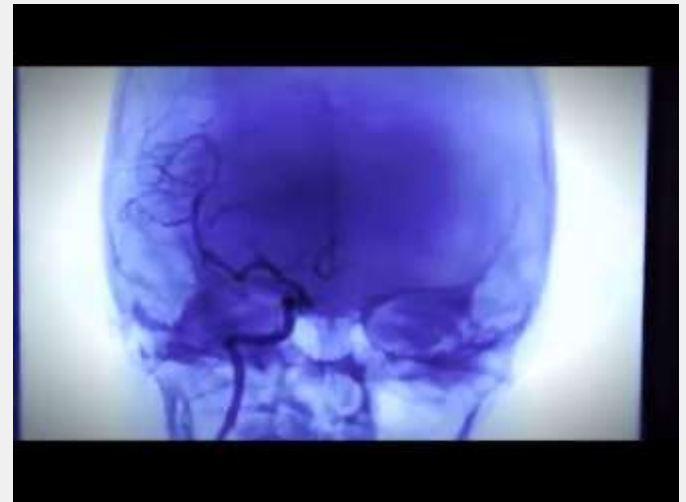
大腸3D-CT画像 (全体像)

PET-CTにつきまして

PET-CTは生命に重大な危害を加える腫瘍などを早期に発見することのできる機器です。特に悪性腫瘍は、早期では中々体調の異変を感じ取ることができず、ほぼ大半の患者様は診療を受けた時にはもう既に中、末期にまで発展してしまっていることが多いです。

臨床検査ではできない「早期発見」、「早期診断」、「早期治療」を実現致します。PET-CTは40代以上の方々の身体検査にて幅広く使用されており、上記問題の解決に大いに役立っており、たくさんの腫瘍患者に早期治療を行って頂くことによって治癒することが可能になりました。

欧米等先進国では腫瘍等疑いのある方には、PET-CTを利用させていただくことで、「早期発見」、「早期診断」、「早期治療」が行えるような体制をとっております。



MRIにつきて

MRIは脳内血腫、脳外血腫、脳腫瘍、頭蓋内動脈瘤、動静脈血管変形、脳虚血、脳虚血、脊髄管腫瘍、脊髄隆起および椎骨腔など脳水腫によく見られます疾患には特に有効的です、と同時に腰椎椎間板ヘルニア、原発性肝癌などの疾患の診断にも適しております。

